

主権者教育を推進する群馬県大学コンソーシアムに所属する学生チームが作成したインタビュー記事をご紹介します。今回は最終回となる第4回、Dチームの記事紹介です！

Dチーム

主に群馬医療福祉大学や育英大学の学生でチームが組まれています。グループのテーマは「福祉人材の確保対策」に関する事で、県職員インタビューは群馬県庁の「地域福祉課福祉人材確保対策室」に、議員インタビューは森県議と鈴木県議に行いました。



◎Dチームの県職員インタビュー記事、そして県議会議員インタビューの記事を添付します！最終回です、是非ご覧ください！

県内市町村の選挙情報

選挙の種類	告示日	投票日	関連QRコード
大泉町長選挙 及び 大泉町議会議員選挙	4月15日（火）	4月20日（日）	

福祉人材の確保対策について

Dグループ

「インタビュー先」地域福祉課福祉人材確保対策室

「職員の方」人材確保係 大平係長 柏原主事

「担当」群馬医療福祉大学 大平 晃生

群馬医療福祉大学 飯島 優華

群馬医療福祉大学 神宮 真生

育英大学 内山 由梨



Q 職務経歴を教えてください。

(大平係長)

私は昨年度まで、健康福祉部の健康福祉課に所属しており、今年度から現在の地域福祉課に配属されました。これまで、企画課、総務課、医務課など様々な所属を経験しています。

(柏原主事)

私は今年度、群馬県職員として採用され地域福祉課に配属されました。

Q 介護人材確保に向けてどのような取組を行っていますか。また、その取組の中で難しいと感じていることは何でしょうか。

介護人材の確保については、①新たな人材の介護職への参入促進、②介護職員の職場への定着支援、③介護職員の資質向上という3つの柱を立て、介護人材の確保に取り組んでいます。

今後、介護サービスのニーズは増加しますが、一方で生産年齢人口が減少していきます。人材の絶対数が減少する中で介護職を目指す人材をいかに確保し定着を図っていくか、とても難しく感じています。

Q 介護職員による高齢者虐待問題に関しては、介護職員のストレスの大きさが要因となっていると思うのですが、介護職員のストレスを軽減するための取組は何かしていますか。

介護職員のストレスが、高齢者虐待の直接的な要因となっていると断定することについては

慎重であるべきと思います。介護職員のストレスが大きい一つの要因として、職員の業務負担が大きいことが指摘されています。

群馬県では、働きやすい職場環境づくりや介護職員の負担軽減を図るため、平成29年度に「ぐんま介護人材育成制度」を創設し、職場環境等の改善や人材育成に主体的に取り組む事業者を認定し、各種支援を行ってきました。

また、介護職員の相談窓口を設置して、職場の悩みを相談できる環境を整備するなど、ストレスを軽減する取組を行っています。

Q 介護職員の離職率を下げるための取組は何がありますか。

介護職員の離職を防止するため、職員の負担を軽減する取組を進めています。具体的には、介護施設等が行う介護ロボット等導入の支援を行っています。例えば、介護施設等が離床センサーなどの介護ロボットを導入する際に、群馬県に申請することで、経費の一部について補助を受けることができます。

Q 年々、介護福祉士養成校の入学者が減少していることへの対策は何かありますか。

群馬県では、介護福祉士修学資金等により、介護福祉士の取得を目指す学生の支援をしています。

また、養成校の入学者数を増加させることが直接的な目的ではありませんが、介護福祉士の

資格取得を目指す外国人材と、県内介護福祉士養成校等とのマッチングを支援する「外国人介護人材マッチング支援事業」を実施しています。今年度の介護福祉士養成校の入学者数については増加しました。

Q なぜ今年度、介護福祉士養成校の入学者が増加に転じたと思いますか？

やはり、留学生の入学者数が増加したことが大きいと思います。推測ですが、新型コロナウイルスによる渡航の制限が緩和されたことが影響しているように思われます。

Q 介護ロボット等の値段はいくらくらいですか？

介護ロボットといっても利用者のバイタルが確認できるものから、利用者の見守りをするものまで様々です。また、性能や機能により値段も異なります。

「編集後記」インタビューを終えて

介護福祉の領域における県での取組は、普段の学校生活では学ぶことが出来ないもので、とても貴重な経験になりました。（飯島）

県庁職員の方から直接お話を聞くことが出来る機会は中々ないため、今回のように県が福祉分野に対してどんな活動を行っているのか知ることが出来て良かったです。（神宮）

インタビューを受け入れてくださった県庁の職員の方々から、様々な意見をいただけて嬉しかったです。また、聞き役が相槌に心がけることで、色んなご意見が引き出せるのだなと思いました。

（内山）

数か月後から介護福祉士として働き始める身として、今回、福祉人材についてのお話を聞けたことはとても有益だったと感じています。県が行っている施策等をこれからも随時確認しながら働いていきたいと思いました。（大平）

（インタビューした日：令和六年八月二十三日）

〔インタビューした議員〕

森昌彦 県議

鈴木敦子 県議

【担当】 群馬医療福祉大学 大平晃生

群馬医療福祉大学 村山翼

育英大学 内山ゆり



Q なぜ議員になろうとしましたか。

〔森議員〕

町議会議員として長年活動してきましたが、町で解決できない問題が山ほどあるということに認識していました。そのような問題を解決するために、県議会議員になろうと決めました。

〔鈴木議員〕

新聞記者として十年働いていて、家庭や教育分野などにおいて、虐待が多い現状を目にしています。そういった問題に対して向き合い、解決していききたいと思ったため、県議会議員になりました。

Q これから取り組みたいこと（実現したい政策課題）はなんでしょう。

〔鈴木議員〕

児童虐待や不登校の問題に向き合っていきたいと考えているのですが、この思いにはきっかけがあります。記者の時代に、取材のため警察署にいた際、一〇代の女の子が急に警察署に助けを求めて飛び込んできました。話を聞いてみると、家で虐待にあつていて逃げ出してきたとのことでした。そういった経験もあり、こどもの置かれた状況に対して社会を通して解決していききたいと思っています。

Q 議員のやりがいや苦勞（議員の苦勞や魅力）があれば教えてください。

〔鈴木議員〕

関わってきた政策が実際に反映されたり、その過程でいろいろな人に感謝されたりすることは、大きなモチベーションになります。逆に、たくさんいただく県民の意見も、現実的に全て実現することができないという点は、つらい部分であり、ジレンマでもあります。

Q 若い学生たちに伝えたいこと（若者に向けたメッセージ）

〔森議員〕

まずは、投票へ足を向けてほしいということです。若い人に向けての政策を作るためには、より若い人からの理解や意見が必要となります。多くの若者に投票に行っていただけとありがたいです。

Q 大学の学費無料についてどのように考えていますか。

〔森議員〕

金銭的な政策は国で管理されていることが多いため、群馬県として県内大学生の学費を無料にすることは難しいと考えます。

金銭面で学生を援助することは難しいとしても、多くの分野や学問を学べる環境を整えるなど、必要な取組を常に考え、進めることが重要だと思います。

Q 福祉分野において外国人労働者の受け入れについてどう考えていますか？

〔森議員〕

現在の日本は少子高齢化社会が進んでおり、働き手の減少が問題になっています。そこで、労働力を確保するためにも、外国人労働者の受け入れについて多様な形で柔軟に受け入れることは良いことだと考えています。

Q 福祉分野で、「残業がなければお金は中々稼

げない」とよく先輩職員さんから聞きますが、福祉分野に限らずいろんな業界で賃金の引き上げを行うことに対してどのように考えているか

【森議員】

学生の学費を無料にすることと同じように金銭的な動きは国が主導であることが多いため、一人一人の賃金を今すぐに増やすことは難しいと思います。そこで、様々な部分で負担軽減ができるように、事業の補助金を今よりも充実させること、介護ロボットの活用を進めていくことで負担の軽減を目指していくことが必要だと考えています。

Q 県内では既にオンライン授業を始める環境が学校全体にあると学びました。教育現場のデジタル化について良いと思う点と悪いと思う点を教えてください。

【鈴木議員】

まず、デジタル技術を取り入れることで良いと思う点は、AI技術の活用により、教員側の負担が軽減されることです。また教員の仕事が代替されることで、人材不足の問題を解決できる可能性もあると思います。

一方で、デジタル技術に対する教員たちの対応力が求められる点は課題の一つかと思います。コンピュータを扱う技術や運用していく上での研修等が必要になってくるのではと考えていま

す。

Q 教育のDX化は実施に際して格差が生じやすいことが考えられます。このことについて、対策としてどんなことが考えられると思いますか。

【鈴木議員】

教育のDX化を進めていくことにより、経済的に余裕のある家庭では機材を簡単に用意出来たり、よりよい教材を準備出来たりと、それ以外の家庭と差が生まれてしまうことは想像できません。しかし今では、YouTubeやその他動画配信サービス等で無料の学習教材というものが昔に比べて充実しつつあり、そのような教材を各自で駆使することで、教育の格差というものはある程度改善できるのではないかと考えています。

【編集後記】インタビューを終えて

県議会議員の方と初めてお会いしたため、とても緊張しました。

また、県議会議員の方々がよりよい社会のために日々業務に励まれていることを知り、インタビューを通して貴重な時間を割いていただけてありがたいなと思いました。(内山)

初めて県議会議員の方とお話しできるチャンスに恵まれて幸運だったと感じています。

自分が普段考えていること、疑問に思っていることについて話すことが出来てずっと画面の中だ

けだと思っていた政治の世界がずっと身近なものだということを感じました。(大平)

父親が県議会議員の方と知り合いということもあり、政治の世界は遠いものとは考えていなかったが、自分で問題意識をもって話を聞く機会は今までなかった。今回、インタビューの機会を頂けたことで自分の中で持っていた問題意識を具体的に持つことが出来た。(村山)

(インタビューした日…令和六年十二月十日)